



# 森のなかま

2011年10月号

NO.42 (継続187)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp>

発行人 久保 重明

〒243-0014 厚木市旭町1丁目8-14・グリーン会館 TEL046-280-4101・FAX046-280-4102



パートナー企業様をご紹介します。 ⑤

## 夢ある明日への取り組み

株式会社鈴廣蒲鉾本店は、江戸・慶応元年創業以来、水産練製品の製造・販売から、かまぼこ博物館、地ビールレストランの運営等、食に関する仕事に携わってきました。

「食するとは、生命をいただき、生命をうつしかえること」を企業理念とし、食べものを提供する仕事に誇りをもって取りこんでいます。

### ■蒲鉾づくりに重要な水と板



みなさんはじめまして！

ぼく、シログチのグッチャンです。

突然ですが、蒲鉾って何からできているかご存知ですか？

そう・・・ さかな



小田原蒲鉾ではぼく、シログチ（イシモチ）が使われます。

小田原蒲鉾は、こういった特徴があります！

#### 小田原かまぼこの特徴

- ・色が白く、山高
- ・しなやかな強い弾力
- ・魚の配合量が多い
- ・主原料はシログチ …等



蒲鉾特徴のひとつの“白さ”には“水”が関係しています！

蒲鉾づくりには“水さらし”という工程があります。

魚の身を小田原の地下水でたんねんに水に“さらす”ことで血や脂がとれて白くなるのです。

さらに蒲鉾には“板”が欠かせません。

作るときに形を整えやすい、持ち運びに便利といった理由のほかに、蒸したり冷やしたりするときに余分な水分を吸ってくれるので腐敗防止の役割があるのです。

蒲鉾のこの形はまさに森と海の循環がなければ出来ないので！

■森林の大切さを自ら学ぶ



鈴廣では1999年より「かながわ水源林パートナー制度」に参加しています。  
 そのパートナー林を「恵水(めぐみ)の森」と名づけ、社員とその家族、そして鈴廣の会員クラブ「如(ごとし)」会員の有志の皆様とともに森林インストラクターの指導のもと、枝打ち・間伐作業、木工教室、森林観察ツアーなどを実施しています。

■間伐作業の様子 (2011年7月開催)



■私達の想い



鈴廣グループでは「いのち」をつなぐ、循環型ビジネスに取り組んでいます。  
 これは、短時間で出来ることではありません。長期に及ぶものです。  
 私たちはこの活動を通じ、正常な循環を取り戻し、自然と人にやさしい  
 “いのちがやく” 食づくりを行って参ります。



最後に・・・ 森林あってこそ出来る「かまぼこ」ぜひ食べてくださいね。

(株) 小田原鈴廣 お客様コミュニケーション課  
 柿田郁美様に作成して頂きました。

広葉樹の苗木が光を受け、爽やかな風吹き渡る成長の森  
 ～～ やどりき水源林内「成長の森」下刈り作業完了報告 ～～

森林部会部会長 浦野 稔

「子どもの健やかな成長と、苗木の成長を重ね合わせ、愛着を持って親しむことのできる『成長の森』をみなさんとともにつくっていく」事業を神奈川県が実施しています。平成19年度、20年度、21年度、22年度それぞれの「成長の森」があり、合計31区画、面積15,100平方メートル（1区画平均487平米）、植栽本数10,100本（1区画平均325本）となっています。乾燥に強いケヤキ、クヌギ、イロハモミジ、ヤマボウシ、ヤマザクラ、コナラ、湿度を好むケヤキ、イロハモミジ、ホオノキ、カツラなどの落葉広葉樹がそれぞれの区画の条件に合わせて植えられています。



成長の森H19—下刈り前



成長の森H19—下刈り完了

昨年、一昨年に続き、今年も神奈川県による水源林委託業務の一環として松田町森林組合から「成長の森（下刈り）」全31区画を受注、8月6日から26日までの11日間、延べ107人という多数の当会会員により実施しました。猛暑が続く中、熱中症やハチに充分注意しつつもハチ（主にホソアシナガバチ）には毎回数人刺される被害を受けました。この時期の活動には十分な飲み水に加えてポイズン・リムーバーが必携のようです。

我々かながわ森林インストラクターの会は受託事業による活動も含めてここ「やどりき水源林」には深く関わっていることから「成長の森」の苗木を見守る気持ちは強く、そのことが厳しい条件の下でも作業参加を促す強い動機になっています。下草を刈り終えた今、苗木が光を受け、爽やかな風の吹き渡る中、成長の森見学者ともども成長を見守ることができるようになりました。事業参加の皆様に対し事務局・やどりき事業部会・森林部会を代表してお礼申し上げます。

## 森林文化部会の講演会

## “人と森の関わり”～日本と欧米の比較

森林文化部会 武者 直

日時：平成23年11月27日(日)13:30～15:30

場所：桜美林大学 PFC(プラネット淵野辺キャンパス)

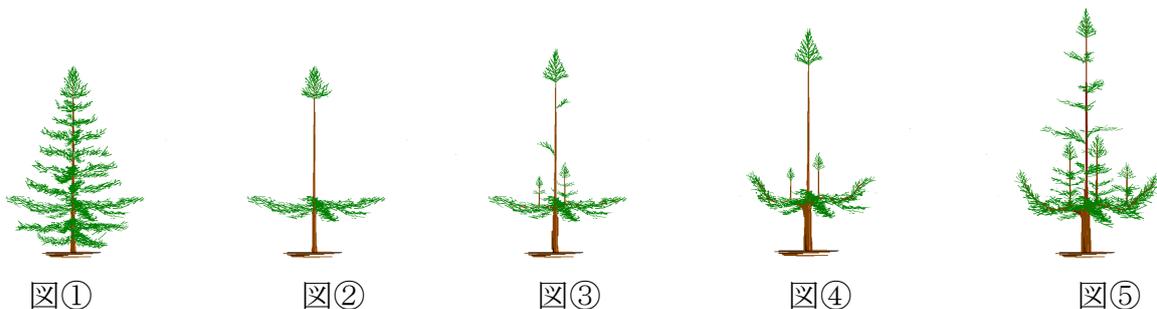
講師：岩井吉彌(いわいよしや)氏 林業家、元京都大学教授

北山杉は日本建築の材料、特に数寄屋建築、茶室の床柱や梁桁、化粧垂木などの生産を目的に育てられてきました。その北山杉の育成、生産に携わられていらっしゃる京都北山の林業家であり、元京都大学教授の岩井吉彌氏が今回の講演会の講師です。5月19日に先生を訪ねる機会があり、先生所有北山杉の森林を見せていただき、台杉の一部手入れ、育成の仕方をほんの一部教えていただきましたので、台杉育成のおおよそを紹介します。

### 台杉のおおよその育成

- 1、苗から、高さ2m程まで成長させる。図①
- 2、それを地面から60cmあたりの枝と、最上部を残して、枝打ち鎌で枝打ちをする。図②  
この残した枝が、台となって化粧垂木、柱を生産することになる。
- 3、数年経つと残した枝の一部から又その枝が、立ち木として立ち上がりだす。図③  
その間、中心の幹の途中に出る枝は、枝打ち鎌で払う。(1回/2年程)
- 4、さらに数年後(1回/2年程)、中心の幹と、立ち木の枝を最上部を残し、枝打ちをする。図④
- 5、さらに数年後残した枝から、さらに幹が立ち上がりだす。(5本程度まで)図⑤
- 6、バランス、光等を考慮し、枝打ちを繰り返し立ち木を育てる。幹の高さ3m以上になったら、伐採をし、太さにより、化粧垂木、柱として生産する。

立ち木は、台から上の部分をしっかり枝打ちすることにより、あまり太さが変わらずほぼ均一になる。生産する頃は、台から下の部分の幹、枝は十分ごつく、太くなっている。写真①台杉古木



写真①台杉古木



写真②台杉の森



写真③枝打ち指導中の岩井先生

講演会案内の詳細は同封チラシ及び電子配信先チラシに掲載します。

## 私の認識

## 野鳥その92

高橋 恒通

フクロウ目フクロウ科の冬鳥、コミミズク（漢和名：小耳木菟、英名：Short-eared Owl 体長L=38 cm）を今月のご案内いたします。

体色は♂♀ほぼ同色、頭頂から背面は褐色、淡橙色、灰白色が複雑な斑模様です。顔盤は白っぽい中に細かい褐色が混じっています。

喉下から体下面にかけて淡灰褐色の地に褐色の縦斑がありますが、これには大きな個体差があるそうです。

コミミズクの最大の特徴は、顔盤の上部で目の位置の真上あたりに小さな”羽角（ウカク）”と呼ばれる耳の如き部分があります。これが同定の最大のポイントです。但し図鑑によりますと羽角が殆ど無い個体もあります。

私の認識では、コミミズクの様に何々ズクと言う漢字で“木菟”と表現されるフクロウ科の野鳥には“羽角”があり、何々フクロウと言う漢字で“梟”と表現されるフクロウ科の野鳥には“羽角”なしなのです。ですが、後稿で紹介予定のシマフクロウには羽角がありますし、逆に何々ズクと言われる野鳥の中で、これも後稿で紹介をする予定のアオバズクには“羽角”がありません。

我国で観察できるフクロウ科の野鳥の中で上記2種は“羽角”の有無を基準にした例外と言えるでしょう。

話を元に戻しますと、コミミズクの目の“虹彩（コウサイ）”は黄色です。虹彩は瞳孔を囲む部分を言います



コミミズク

コミミズクの棲息環境は、海岸、河口、川原、農耕地、埋立地など広々と開けた草原などです。一定の面積の中で1~10羽位が棲み、夕方から活動を始め主にネズミを捕食します。天候の悪い日などは日中でさえも活動をします。

コミミズクの狩は、アシ原や草原の上を低く飛び、時々ホバリングー低空飛翔ーをし乍ら獲物を狙います。猛禽類特有で羽音は立てません。

獲物のネズミを畦の窪みや草むら等に隠す事もするそうです。

私がコミミズクを初めて観たのは約15年位前に沼津の浮島沼の女鹿塚（メガヅカ）で、用水路の脇にある低い杭に止まっている姿でした。横を向いた姿でしたが、私達バーダーの方へ顔を向けた瞬間をスコープの中で観ました。暫くしてから、しなやかな羽搏きで愛鷹山の

方向へ飛び去って行きました。ここ2~3年、私はコミミズクに逢っておりません。

沼津の浮島沼もアシ原が次々と埋め立てられ、アシ原も狭く然もモザイク状に分断された処が増えた為、コミミズクに殆ど遭えなくなってしまいました。

鳥友の話では、関東地方でコミミズクを確実に観察できる場所は、渡良瀬遊水地のアシ原だそうです。それも地元の鳥好きの方から必要な情報を事前に貰っておく事が、空振りを避ける賢明なやり方だと言っていました。

因みにコミミズクの世界地図上での棲息分布はフクロウ科の野鳥の中ではダントツに広大です。

ユーラシア大陸全域、北アフリカを含む地中海沿岸、ケニアを中心とした領域、北米大陸全域、南米大陸ではアルゼンチン、コロンビアやヴェネズエラの一部などとワールドワイドなのです。我国は越冬地ですので冬鳥ですが、カリフォルニア、オレゴン、それからアルゼンチンでは周年観察できます。

## &lt;参考資料&gt;

- ◎ 日本の野鳥、山溪ハンディ図鑑7  
写真・解説/叶内拓哉、分布図・解説協力/安部直哉、解説（鳴声）/上田秀雄  
山と溪谷社
- ◎ 日本の野鳥、山溪カラー名鑑、  
編 高野伸二、解説 浜口哲一、森岡照明、  
叶内拓哉、蒲谷鶴彦  
山と溪谷社
- ◎ フィールドガイド日本の野鳥、野鳥ブックス②  
高野伸二著、（財）日本野鳥の会
- ◎ イラスト コミミズク 大塚晴子（11期）

## 訂正します。

「森のなかま」本誌9月号<私の認識> P, 4の右側・上から1行目シロハヤブサはアイルランドの国鳥は誤りで正しくは、**アイスランドの国鳥**です。因みにアイルランドの国鳥はカモメの仲間のミヤコドリ（ユリカモメではありません）です。 著者 高橋恒通

## 活動短信

7/26～8/20

## 森林レクリエーションと飯ごう炊飯

- 日** 7月26日(火)・28日(木) 9時～15時  
**場** 小田原市いこいの森  
**参** 一般県民親子 39名(大人15名・子供24名)  
**スタッフ** 小田原市森林組合 佐藤 他2名  
**イ** L村井⑨、齊藤⑥、小沢⑨、松山⑩、

両日とも天候は曇り時々小雨だったが、比較的涼しく過ごしやすい活動でした。午前中はいこいの森園内を森林散策、危険な植物のツタウルシを観察。でも、子供達の一番のお目当はコナラ、クヌギ林のクワガタ、カブトムシ。樹液にはカナブンがいっぱい群がっていたが、見向きもしません。夜行性の虫たちの寝込みを襲ってゲット！お昼の食事は子供達のお米研ぎからスタート「ママが朝やっているのと同じだー」ほんの少しでも親の苦労が分かったかなあ？カマドの火付けも子供達は興味津々。私たちは水加減や火の具合をサポートして各班失敗なく、森林組合特製の美味しいカレーライスを頂くことが出来ました。午後はコースを変えて森林散策、次の丸太切り体験では、2年前『箱根の森小学校学校林・間伐』で私たちが指導した小学生との出会いがありました。なかなかの腕前で子供達の注目の的でした。10年後が楽しみです！！最後にズタケの葉をつんで笹舟づくりです。坊所川の流れを引き込んだ池でびしょびしょになって大騒ぎ。楽しく一日が終わりました。(記 9期 村井)

## パートナー林の保全活動(間伐)

- 日** 7月27日(水) 10時半～12時半 晴れ  
**場** やどりき水源林(鈴廣かまぼこ 恵水の森)  
**参** 鈴廣かまぼこ様のお客様 15名  
**県** 自環保水源の森推進課、内田、後藤、  
**イ** L小沢⑨、波多野⑩、

鈴廣かまぼこ様のお客様を対象とした、野外観察を兼ねた森林間伐体験を行った。台風6号の大雨の影響で林内がだいぶ荒れていて、山の厳しさをお客様にも見て頂く事が出来た事が収穫でした。ひぐらしの合唱がこだまする中、2班に分かれそれぞれ1本の間伐を行った。参加者の中には前にも参加経験の方もいて和やかな内にも、間伐の危険性を説きながらいざ伐倒に成ったが2班ともかかり木となり、お客様の次行程の関係も有り作業を打切りひとまず下山して最後まで作業が終了できなかった事を説明して終了しました。間伐作業の難しさを体験して頂いたとともに私もインストラクターの未熟さも感じた1日でした。又かかり木の2本は再度伐倒させて山を後にした。(記 9期 小沢)

## 新任教師研修

- 日** 7月27日(水)  
**場** 愛川ふれあいの村  
**参** 平成23年度新任教師 65名  
**財** 古舘  
**イ** L野田⑧、井出①、高崎④、小野⑦、鳥飼⑩、松本⑩、

新任教師研修講座「人格的資質向上ふれあい研修」4回のうちの2回目。井出さんの盛り沢山の森林講話に続き、自然観察と木工クラフト。木工は書けない鉛筆作りでナイフの使い方の研修。学校でナイフを使わなくなった時期の先生たちであったが、全員が基本どりに上手に使えたのにはビックリとの木工担当者。自然観察はふれあいの村の広場で行なった。例に漏れず知識は豊富にあるものの実物・現状となかなか結びつかない。自然に興味を持つためには目に付いたものを、「なぜそのように」「ドウシテそうなったの」と疑問を持つこと。これは自然観察だけでなくほかの教科にも通じるのではとの話で締めくくる。(記 8期 野田)

## 自然体験ツアー

## “たたき網を持って、草むらで昆虫を探そう”

- 日** 7月30日(土) 10時～14時半  
**場** 県立21世紀の森、森林館、木材工芸センター内山林道付近、  
**参** 22名(大人8名、子供14名)  
**スタッフ** 足柄GS 木津、渡辺、  
**イ** 金森⑩、

7月18日に続き2年目の2回目、今回も昆虫好きの子供達が集まった。9時過ぎに現地に着したが、途中交通渋滞がひどく、この後訪れる参加者の遅刻が心配された。午後から雷雨が予想できたので、すぐに避難できるように近場での観察地も検討しておいた。交通渋滞で集合に間に合わない参加者が2組出たが、午前中にはたたき網を完成させた。昼食後、いざ昆虫探しに出発、途中、紫陽花や蜘蛛の巣の話しながら約10分歩いて現地に着、たたき網の使い方を実演した後、数か所で約1時間昆虫を探し、捕まえた昆虫をみんなで共有する。雷鳴がしたので急いで森林館に戻り、観察できた昆虫の解説、たたき網の様々な使い道を提案する。この頃、外は土砂降りとなる。少し早めの14時半に解散。アンケート結果は上々であった。(記 10期 金森)

## 水源の森林づくり(下草刈り)

- 日** 8月5日(金) 10時～12時  
**場** 秦野市ヤビツ峠  
**参** 自治労神奈川県本部関係者 59名  
**財** 豊丸、**看** 青木  
**イ** L渡辺③、小野⑦、浦野⑧、齊藤⑧、松本⑩

当日は、今にも降り出しそうな天気。打ち合わせでは、県内水道関係施設の労組員が中心で、森林づくり活動は今回が15回目。ベテランの方が多く、下刈り作業にも慣れている。そのため、朝方の雨で活性化

しているヤマビルへの対応と基本作業の徹底について確認し合いました。

リーダーの「水と森林」の講話の後、作業を開始。きつい斜面の中、背丈ほどのカヤに悪戦苦闘しながらの作業でしたが、ヤマビルの被害も怪我もなく無事終了。

きれいに刈られた場所を見ながら、参加者一同改めて森林づくりの大切さ、続けることの大切さを実感。記念写真撮影後、帰路につきました。

(記 8期 齊藤)

### みどりの学校「やどりきの自然観察と 水源林で川の生き物を観察」

日 8月6日(土) 10時半～13時40分

場 寄バス停～水源林まで自然観察  
水源林内の沢で生き物観察

参 15名(子供6名)

主催 (財)かながわトラストみどり財団 窪田

コープ 関山、遠藤、関各氏

イ L宮本④、山崎⑦、

10時25分寄バス停に増発バスで到着の主催者、参加者を出迎え簡単なオリエンテーション、ストレッチをして炎天の路上を時折自然観察しながら水源林に向かった。ほぼ1時間で広場に到着、30分間の昼食後、集会棟広場前の沢で水生生物の採集観察をすべく中州に案内し、資料を配布、説明に入ったところで降雨になった。参加者には急きょ集会棟へ避難してもらい、諸用具は川岸に運んだ。ものすごい雷雨となり、中州は怒涛逆巻く激流に消えた。とくに滝郷の滝から飛ぶように流れ落ちる濁流はすごかった。集会棟で「やどりき沢で採集される生きもの」について簡単な説明を行った。また、インストの山崎氏が子供向けにグッズの提供や遊びをしたので、参加者の不安をほぐすのに大変役立った。寄バス停に向け出発を予定した13時40分ごろには幸いにして雨が上がり、参加者は徒歩で水源林を出発、帰途についた。

何分、時間的に非常にタイトな企画であったことと、雷雨に遭遇したこともあり、みどりの学校にふさわしい計画通りの活動にならなかった。

参加者が全員無事で帰途に向かわれたことに安堵した。

(記 4期 宮本)

### 県民参加の森林づくり (竹林整備)

日 8月13日(土) 9時～13時半 晴れ

場 川崎市麻生区栗木

参 一般県民 85名

財 内海課長、永島 看 青木

イ L清水⑧、相馬⑤、伊藤⑦、渡部⑦、村井⑨、上田⑩、小林⑩、酒井⑩、中元⑩、鳥飼⑩、大塚⑩、

研 鈴木⑩、柴⑩、波多野⑩、

竹林は手入れされずに密生して故死竹が乱在した状態のため、枯竹等を玉切・集積など片付けを中心に作業しました。現場が狭いため、顔の軽傷1件発生しました。

作業終了後は整然とした竹林の様子に感嘆の声があがり、楽しく作業できました。

昼食後は、リーダー清水さんの竹のミニ講座を学びました。参加者から「楽しかった」「また参加したい」と感想が聞け、満足度の高い良い活動となりました。

(記 11期 大塚)

### 2011年 神奈川県勤労者育林祭(連合神奈川)

日 8月20日(土) 9時半～15時半 曇り

場 やどりき水源林

参 連合神奈川関係者約120名

場 自環保 水源の森林推進課 森、後藤

看 三廻部病院 2名

イ L竹島③、水生生物班・班長宮本④、齊藤⑥、山崎⑦、愛木⑦、金森⑩、森林観察班・班長村井⑨、森本⑤、内野⑨、小林⑨、松山⑩、酒井⑩

※参加者を二班に、A班は午前水生・午後森林、B班は逆にし、全員が水生と森林を観察する内容豊かな企画であった。私の班に歩行困難なお子さん、アッチガオ沢までを頭に出発。

何時もは鹿も食さない異臭草の声で素通り気味の松風草が、今盛りと膝高にすくと立ち、手で扇ぐだけで、涼しげに揺れながら白い小さな花を満開にし、林縁の全てを飾り、皆さんを歓迎していますの声に感心しきり。

「松風草 光が揺れる 花揺れる」(ひだまり)

クロモジと楊枝に、「ナランダ楊枝か？」あくびする3年生。しかし江戸時代より300年、匠の技、長さ10cmの扇子やうなぎの形をした伝統的楊枝だけを作り続け、日本橋に三階建のビルを建てた「さるや」さんの話にまたまた感心しきりのうちに観察を終えた。

(記 10期 森林観察班 酒井)

※7月末の台風、そして度重なる豪雨のため沢の流れが変わり、水生生物が採れるか心配されたが、そこは人力、大勢の眼で必死に探して、ほぼ種類としては通常の観察ができた。カジカ3匹、沢ガニ多数、カワゲラ、ヘビトンボ、プラナリア等、それなりの種類を捕獲して、上流のきれいな水に棲む生き物たちとの出会いを体験できたのは嬉しい。大型の水生生物を捕まえた子供たちには7期山崎さん手作りのグッズが賞品としてプレゼントされました。

(記 3期 水生生物班 竹島)

**やどりき水源林  
ミニガイド**

**9月のトピックス**

14日やどりき森の案内人・植物班は島岡さんをリーダーに「やどりき水源林のキノコ観察」を行いました。  
“タカナシの森”で傘径20cm・柄長26cmのハラタケ科の見事なカラカサタケに遭遇しました。(美味そうですね)

**10月の水源林**

15日は「やどりき水源林のつどい」パートナー企業の皆様、ご家族、お友達連れ立って・・・参加を期待しています  
22日は「成長の森見学会」秋の水源林は賑やかですよ。

**「森の案内人」情報**

- 実施時間：毎週土曜・日曜・午前10時・午後1時1～2時間程度(12月1月2月休止)
- 集 合：水源林入口ゲート前
- 内 容：森林インストラクターが自然観察にご案内します。森林のしくみ・手入れなどについて説明いたします。  
参加自由、参加費無料
- \*10人以上の団体は事前に下記までご連絡ください。
- 問合せ：(社) かながわトラスとみどり財団 TEL:045-412-2255  
fax:045-412-2300
- ホームページ：<http://www.ktm.or.jp>
- E-mail:midori@ktm.or.jp
- やどりき水源林までの道順  
小田急線新松田駅または JR 御殿場線松田駅下車、富士急湘南バス「寄(やどりき)」行き乗車約25分。バス下車後(案内板あり)川沿いに徒歩35分。  
寄大橋の右横が水源林ゲートです。

**イベント情報 & ご案内**

**県立秦野ビジターセンター企画展**

11月13日まで

ひろげよう！表丹沢活動の輪  
～私達こんな事しています！

☎ 0463-87-9300

◇森のなかま原稿募集◇

会員・購読の皆様からの原稿を募集しています。  
<広報全般についてのお問い合わせ>

小沢章男まで

Mail:a.ozawa@tbz.t-com.ne.jp

Tel:0467-52-2191

送り先

<①電子配信担当> 森 義徳

〒232-0053

横浜市南区井土ヶ谷下町16-3-202

Tel/090-5433-7784

Mail:shinrin.inst.denshihaishin@gmail.com

<②メール・手書き原稿送り先>

【本誌】村井正孝

〒226-0002

横浜市緑区東本郷6-22-1-420

Tel/Fax:045-476-4112

Mail:murapu60dai@yahoo.co.jp

【別冊】水口俊則

〒250-0871

小田原市下堀123

Tel/Fax:0465-42-7240

Mai:minagold109@plum.plala.or.jp

【CCで】竹島 明

〒238-0045

横須賀市東逸見町3-7

Tel/Fax:046-825-9281

Mail:2nahemi0818@jcom.home.ne.jp

原稿は随時受け付けてます。

**編 集 後 記**

★オーシツクツクの声も、かぼそく消えて赤トンボが乱舞、あの猛暑から涼秋の風軽やかに匂う。秋のきのこがひょっこりと顔をだす。せめて、セシウムなど、無縁にしたいと願う。十五夜に団子とすすきを飾った縁側が懐かしい。 松風舎 (鈴木松)

★グリーンカーテンとして植えたゴーヤだが、ゴーヤチャムプルでも楽しませてもらった。窓辺に実るゴーヤもあと1本(9月中旬)。少々さみしい。(井出)

★オーストラリアとの食文化の違い昼食にラーメンを作りいざテーブルを囲み食べ始めた時、オージはラーメンをすすする音が嫌いとか、仕方がなく口に含んでもぐもぐと噛みながら！しかしこれもこの国に住むとなれば受け入れる他ないかも！！(小沢)

★ナナカマドの葉が色づき始めた9月なかごろ、お月見会のお手伝いで北八ヶ岳白駒荘へ。翌日は真っ赤な実をつけたゴゼンタバナに迎えられ横岳山頂へ。帰路、美味しい創作料理の歓迎と、にこやかなご夫婦の顔見たさに八ヶ岳自然ヒュッテに寄らせて頂きました。ご存知、竹内さん(7期)のペンションです。素敵な所ですよ。各期の親睦に、家族旅行の団欒に(庭でバーベキューもできます)野鳥観察も案内して頂けます。ぜひぜひ！！(村井)

◇年間購読のお申し込み

「森のなかま」年間購読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込みください。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会宛まで購読料年2000円をお振込みください。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記してください。

振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

(頒 価 200円 送料共)

編集人：村井正孝

事務局：竹島 明

広報部：小沢章男 井出恒夫 (HP)

水口俊則 森 義徳 真貝 勝

鈴木 朗 鈴木松弘

天野里美 大塚晴子

**山麓のオアシス**

小田急線 新松田駅 踏み切り際

**お食事処**

**こま ち**

15日\*やどりき水源林のつどい  
22日\*成長の森見学会・お帰りにぜひ  
お立ち寄りください。



緑の募金箱協力店



☎ : 0465-82-4058

月：定休日(祭日の時は火曜)